

会 議 議 事 録

1 会議名	第3回長岡市総合計画策定委員会 土地利用部会
2 開催日時	平成28年1月15日（金曜日） 午後1時30分から午後3時30分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>(部会員)</p> <p>中出 文平 部会長 上野 裕治 副部会長</p> <p>栗山 三衛 部会員 坂本 典男 部会員 澤田 雅浩 部会員</p> <p>白井 敏彦 部会員 鈴木 金次 部会員 樋熊 憲子 部会員</p> <p>美寺 寿人 部会員 山川 智子 部会員</p> <p>(事務局)</p> <p>近藤市長政策室長 野口農林部長 安達都市整備部長</p> <p>中村政策企画課長 宮島環境政策課長 伊藤商業振興課長</p> <p>深澤工業振興課長 佐山産業立地課長 高橋農林整備課長</p> <p>小玉都市計画課長 中川公園緑地課長 小林農政課長</p> <p>渡邊交通政策課長 鈴木政策企画課長補佐</p> <p>(傍聴人等)</p> <p>傍聴人 0名</p> <p>報道機関 3社3名</p>
5 欠席者名	佐野 可寸志 部会員 三井田 由香 部会員
6 議題	(1) 土地利用上の方向性について (2) 土地利用区分の利用方向と目標値（案）について (3) 次期総合計画における土地利用構想（案）について
7 会議結果の概要	第1回、第2回の土地利用部会の審議内容を踏まえ、土地利用上の利用方向と目標値の考え方と、次期総合計画における土地利用構想（案）についての審議検討が行われた。
8 会議資料	<p>第3回次第</p> <p>資料1 ・土地利用上の方向性 ・土地利用区分の利用方向と目標値（案） ・次期総合計画における土地利用構想（案）</p> <p>当日資料 土地利用構想図（案）</p> <p>参考資料 現行の長岡市総合計画土地利用構想</p>

9 審議の内容	
部会長	では、議事（１）「土地利用上の方向性について」は、第１回と第２回に議論したものの復習ですので、議事（２）「土地利用区分の利用方向と目標値（案）」についてまで、資料１に基づき、一括して事務局から説明をお願いします。
政策企画課長	（資料１ １、２に基づき説明）
部会長	ただ今、９ページ「（２）農地」から、１４ページ「（９）その他」まで、それぞれの土地利用分類ごとに「利用方向」と「目標値の考え方」について説明がありましたが、ご意見、ご質問等ありましたら承りたいと思います。いかがでしょうか。
部会員	データの確認です。それぞれ増加傾向、減少、横ばいと書いてありますが、１０年前から比べて、それぞれどうなっているのでしょうか。１０年前はどのラインなのかを示していただけないかと思います。
部会長	過去１０年の傾向に対して、単純に線を引くのではなく、政策的な考え方で伸びや減少幅を抑える、同数のものについては維持する等、変化率のあたりも、数がわかれば示してもらえれば良いと思います。そうでなくても定性的でも良いので、示していただければと思います。 平成２６年の現況に対して、過去１０年と言うなら、平成１６年、１７年だと思いますので、過去の資料を調べて数値を提示していただきたいと思います。
都市計画課長	平成１７年と平成２６年の数値を比較したもので、話をさせていただきます。農地については、この１０年間で約５．８㎢減少しています。森林についても、約５㎢減少しています。原野については、全く横ばいです。水面・河川・水路については、０．１８㎢減少しています。道路については、１．３３㎢増加。宅地については、１．２９㎢減少しています。
部会長	宅地は、「住宅地」、「工業用地」、「その他」の３つがありますが、どうでしょうか。
都市計画課長	宅地全体で１．２９㎢減っていますが、住宅地については１．８３㎢増加しており、工業用地についても０．２３㎢増加しています。その一方で、その他の宅地は、３．３１㎢減っています。

部会長	<p>次回、数字が出てくると思うので、そのときに今の説明のように、10年前と今の変化量、それから、10年後の目標値の変化量を示してもらおうと、今後、長岡市が土地利用に関してどういう方向で施策を行っていくかが、わかりやすくなると思います。これに書いてある「目標値の考え方」の定性的な部分は、今日、もう少し議論するとして、それに基づいて数字を次回示していくときに、10年前も出してください。</p>
部会員	<p>13ページと14ページの目標値の考え方について、住宅地とその他の宅地の「一時的に多くの面積が増加する見込み」、「新たな土地区画整理事業が進み」というところで、10年という長い時間で考えると、やはり増加している時期と、逆に今、減少している時期などあると思うのですが、一時的に増加が見込めますというニュアンスで言っているのか教えてください。</p>
都市計画課長	<p>「目標値の考え方」で、「現在、新たな土地区画整理事業が進み」、「一時的に多くの面積が増加する見込み」ということは、基準となる平成26年度、これが宅地のベースですが、正確には平成25年1月1日現在の固定資産税台帳から数字を持ってきます。その後、使用開始された区画整理事業が5つあります。そういった5つの区画整理事業の宅地が、今、開発中ですので、一時的に増加しているということになります。</p> <p>今、事業を着手している5つは、事業認可期間としては、平成30年度までの間で区画整理事業が完了する見込みですので、そこで生み出された宅地については、この増加分に入るので、書かせていただきました。</p>
部会長	<p>現状では宅地、住宅地扱いになっていないけれど、当然、区画整理が進んで開発も終わると、住宅地、宅地になり、住宅が建ったときに、数字として確実に見込まれるものは織り込むということで、ここで計画的にあえて住宅地を増やすというより、その分を積算するので増えますということですね。その他についても、明らかに病院と若干の商業施設の分が増えるということを見越して、ここに書かれていると思えばいいということですね。</p>
都市計画課長	<p>はい、そうです。</p>
部会員	<p>農地と林地の関係です。農地は、人の手が入らないとだめになって難しいですが、「目標値の考え方」でいくつか文言を見ると、数字を出す根拠にはなっていないという感じで、決意や方針のような感じがします。やはり、目</p>

	<p>標値を出すのであれば、今出たような数値、例えば耕地面積統計で数値の捉え方がどうなっているかを示し、その中で、施策や対策があることによって、どこまで農地を確保したいかという記述が必要ではないかという気がします。例えば、平地であれば、基盤整備をしたからここは宅地に確保されます、中山間地域であれば、こういう対策を打つことによって農地が守れ、だからこれだけの農地が確保されますという感じでないと、根拠は難しいのではないかという気がします。非常に難しいですが、そこまでやっていただくと、十分な気がします。</p> <p>それから、林地は国有林と民有林の分けになっていますが、林地は人の手が入らないとなかなか維持されないの、重要な部分は人工林がどうなっているかというのが必要だと思います。人工林を入れたほうがいいのかと思うのですが、どうでしょうか。</p> <p>私も同じ考えを森林の部分のページで思いました。考え方の指標が国有林と民有林という現実的表示では、なかなか今後の持続計画性の真実的なところには反映しにくいのではないかと思います。やはり人工林も計画的な地域計画にのっとった中で整備を進めているので、そのあたりが反映してくれば、10年後のビジョンがより明確になるのではないかと思います。</p> <p>この森林の10ページの「利用方向」で、気になった表現だけ意見を述べさせていただきます。2行目の「森林は」からですが、森林は林業だけの資源ではないと、私個人的な捉えをしており、やはり地域の資源ではないかと思います。「地域資源」という表現のほうがしっくりくると思います。上から4行目の終わりに、「林業の振興」ということで言葉が入っていますが、この後に続く表現を見ると、直接的な林業よりも、もっと大きなものを指していると思いますので、この行では「林業振興」という言葉は削除して、一番最後の2行目の「エネルギーとしての間伐材の有効利用などを通して」で、ここでは「地域林業の振興を図ります」という表現が望ましいと思いました。最後の「林地としての維持、保全を図る」という表現、また6行目あたりにも、「森林の保全を図ります」と、似たような表現が出てきているので、そのあたりの表現を訂正いただいたほうが良いと思いました。</p>
部会員	
部会長	<p>後半の「森林は」というところの「林業資源であることに加え」の後ろは、「水源かん養」「生態系」「防災機能」「景観保全」というようなことも含めて、それは林業だけではないという意図を持って事務局も書いていると思います。もう少し文言は整理して、最後に言われた、4行目の「林業振興」を「エネルギーとしての間伐材の有効利用」に持ってきて、要するに森林は、</p>

部会員	<p>多面的機能ということで林業の振興だけではなく、いろいろなことでしてほしいという意見ですので、後半については検討してください。</p> <p>前半については、数字で書くときには、これは形式化されている指標だと思うので、国有林、民有林という書き方なのか、それとも国有林と保安林と地域振興計画対象民有林という3つの書き方になるかと思います。ただ、人工林とそれ以外の林という切り方は、あまり土地利用区分上はしないですが、今、言われたように、人工林はこう推移し、そういう考え方をしますという積算のときには使えると思います。ただ、最後、数字になって出てくるときは正しくなく、国有林・民有林、もしくはもう少し加えた切り方でしか切れないのではないかと思います。</p> <p>「林業振興」という言葉があるときに、国有林とか民有林の中に人工林以外のものは人の手が入らないままになっています。振興というのは、あくまでも人工林の所で行われていると思います。その数字がないと、例えば計画になったときに、林業振興の施策をやりますと言ったときに、目標値との違いも出てくるのではないかという気もします。</p>
部会長	<p>目標値を示すプロセスでは、今のような人工林か、そうでないかということで計算しますが、最後のアウトプットについては、どうしてもこういう示し方をせざるを得ないのではないかと思います。国土利用計画や、県の数字もこういう形しかなく、林野庁でも地域区分の調整をするときは、こういう出し方しかしていないのではないかと思います。県の国土利用計画法の8条による計画がどういう区分で切っているかを見てもらい、結局それに合わせないとうまくないこともあるので、そこをチェックしてください。意図はわかりましたので、次回、目標値の考え方のところ、もう少し根拠になるような形で書いてもらえるならばお願いします。今日、農林整備課長も来られていますので、データがあるようなら、ぜひお願いしたいと思います。</p>
部会員	<p>文言の関係で、第1回でも話したと思いますが「食料」という文字で、9ページの「食料自給率」では、料理の「料」という字を使っていますが、目標値のところは「糧」という字が使われています。「料」を使う場合は食料全体、野菜や果実も含めて一般的に使われますし、「糧」は穀物を中心になりますので、そのあたりの使い分けをきちんと整理したほうがいいのではないかと思います。</p> <p>それから、「食料自给力」という文言は、悪くはないと思いますが、自给力というのは、農地を、例えばサツマイモ等で全部使ったときに、どれだけ</p>

部会長	<p>生命が維持されるかということで、いわゆる栽培とか政策とはまた意味が違ってきます。そのため、「食料供給力」や、あるいは「自給率」という文言を使ったほうがいいのではないかと思います。</p> <p>文言については、農政課と精査してください。</p> <p>食料の「料」ですが、どちらかというと畑も入っているから、料理の「料」のほうが広い意味でしょうか。</p>
部会員	<p>そのほうがいいです。今、食料自給率は料理の「料」を使っています。</p>
部会長	<p>少なくとも同じページの中に、両方の表現が入っているのはおかしいので、もう少しチェックしなければいけないと思います。</p>
部会員	<p>13ページ「(7) 工業用地」は、人口減少の対策、産業政策、ひいては起業や産業の誘致だと思います。必要な用地は確保できます、増加を見込めます、ということですが、前に頂いたデータでは、工業用地は過去10年間で、3.24km²から3.47km²と、ほぼ横ばいに近い状況です。今回、目標値を設定しますが、ある程度政策誘導的なものも含め、少し強気で書いてはどうかと思います。</p> <p>それからもう1点、「(8) その他の宅地」ですが、第1回会議の資料では、全データ出ており、長岡市は、22.83km²から19.52km²に減っているのが、驚いた覚えがあります。今回、目標値の中で「施設敷地の増加が見込まれます」という表現になっていますが、過去、検証した理由がなく、増加が見込まれることの根拠をもう少し教えていただきたいと思います。</p>
部会長	<p>1回目の時は、左岸バイパスの用地等が道路用地になり、その後変わってその他になっているのも一部あるだろうということでした。道路用地になっていない用地は、その他の宅地になるということもありますが、左岸バイパスと東西道路の用地だけで、そんな3.3km²もあるわけがないので、もう少し精査した上でないと、10年後の目標値が出にくいと思います。要因を分析し、目標値をどう設定するかを考えてもらえればと思います。</p>
都市計画課長	<p>精査させていただき、次回、目標値を示すとともに、説明させていただきます。</p>
部会員	<p>面積ですが、私も、前回の10年間の差分と今回の目標の差分を明記しても</p>

<p>部会長</p>	<p>らえればありがたいと思います。</p> <p>それから、森林ですが、例えば林地の内訳がどう推移していくか、参考資料でいいですが、あればありがたいと思います。</p> <p>それから、参考資料の現行の土地利用構想では、「自然地」という項目があり、今回は「森林」としてはありますが、これはどちらになるのでしょうか。内容的には一緒なので、森林でいいのかと思いますが、説明をお願いします。</p> <p>前半については、他の部会員からも指摘がありましたので、少し整理し、数値を示していただければと思います。</p>
<p>都市計画課長</p>	<p>後半については、次の(3)の「次期総合計画における土地利用構想(案)」の中で説明をさせていただきたいと考えています。</p>
<p>部会員</p>	<p>確認ですが、13ページの(6)「住宅地」の目標値の考え方の2つ目「現在も世帯分離の進展が続いている」とありますが、現状では世帯戸数が、減少に向かう、あるいは減少を始めたというデータがあったのではという気がしました。そのあたりとの兼ね合いは、どうなっているのでしょうか。</p>
<p>都市計画課長</p>	<p>まず、世帯数ですが、長岡市では平成23年に10万世帯を超え、現在もなお増加傾向で、今現在10万1,000世帯です。それから、住宅等の着工件数ですが、毎年大体800以上の新築、着工件数が上がっており、これが現在もなお続いている状況です。</p> <p>また、新たな区画整理を施行しているところで、地区計画制度を有していますが、地区計画制度についても、平成24年、25年は大体1年間で250軒ほどの届け出ですが、昨年、今年度は300軒を超える新築物件の計画予定で件数が出ています。まだまだ、長岡では新たな土地を使った新築着工が見込まれるということで、ここに記載しました。</p>
<p>部会員</p>	<p>現状はそうでしょうが、人口減少との絡みとなると、今度は単純に世帯分離というより、周辺部から人が集まってくるという状況があつてということがあつてと思うのですが、どうでしょうか。</p>
<p>都市計画課長</p>	<p>それも当然あると思っています。これからは全体として人口減少時代に入ります。今、整理を進めている5地区の区画整理がありますが、それ以降については、現在、見込まれるものがないということで、今後はコンパクトなまちづくりをしていき、新たな大きな住宅地の増加は見込まれないのではな</p>

<p>部会長</p>	<p>いかと思います。</p> <p>見込まれないのではなく、しない、させないとしないとはいけません。既存の市街地の有効活用が前提にあり、今やっている土地区画整理も含め、そこまでは認めるけれど、それ以降は農地や林地を開発しての、少なくとも住宅地供給は極力抑えるという姿勢をきちんと打ち出しておかないといけないとすると、今、委員がご指摘のように、2番目の矢印は住宅地が増加することが見込まれますという、見込まれるから住宅地を増やしますとしか読めません。数字が出てくれば、もう少し納得できるかもしれませんが、その数字の根拠も政策的にかなり押さえ込むということが、この目標値の考え方のところでもう少し強く言ったほうが良いだろうということだと思います。</p>
<p>都市計画課長</p>	<p>わかりました。まさにこれからは、増やすほうを、外に拡大していくのではなく、市街地内の宅地の有効活用ということで考える必要があるのもう少しそのあたりは政策的にわかりやすい文章を考えたいと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>ここ30年くらい市街地側は広げてきました。ほとんどが田をつぶし、あるいは山を削ってきたけれど、もうそうしないという考え方が書かれてくるのだと思います。農地と森林は、割とそういうトーンで何とか維持していますと書いてあるのに、住宅地は、あまりそう書けていないという印象なのが、少しもったいないと思っているので、そこはきっちり書いてください。</p> <p>その点でいうと、先ほど委員が言われたように、工業用地に関しては、トレンドで23ha増えただけだと、この10年間では政策的にもう少し増やしたいというなら、それはこういう意図であるというのを書いて、増やしてくればいいのではないかと思います。住宅地と工業用地をきちんと書き分けるなど、そういうところを工夫して「その他の宅地」をどう書くかを、少し吟味していただければと思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>この計画を立てた場合に、今の話でいくと、世帯分離をして、若い人たちが新築すると、高齢化している親御さんが、そのまちに残るといったものが少し見えてきます。そうすると、総合計画の考え方で、高齢化が進む地域はどんどん進み、また、新築するまちは環境を壊していくとなれば、それぞれの地域の中に若い人もお年寄りもいるという感じが見えてくるのではなく、お年寄りだけが残ったまち、新築の若い人たちがいるようなまちが、少し見え隠れします。そのあたりは、どのように捉えたらいいですか。</p>

部会長	それは、この下の2行の「既存の市街地を有効活用する」に、どんどん入れていくという国の政策です。第1回委員会の際に集約型都市構造の説明と立地適正化計画の説明があったと思いますが、コンパクト+ネットワークの都市構造も織り込み、こう書いていると思いますので、事実それができるかどうかは別として、政策転換は、ここで言うということだと思います。
部会員	<p>住宅地で、この新築が増えるところは良いですが、空き家はどのくらい増えているのでしょうか。この住宅地の中に、空き家も入っているということで、新築が多くなる一方、空き家も増えるときに、姿勢として空き家対策を住宅地の中で位置づけておいたほうが良いのではないのでしょうか。そういう意味で、既存の市街地の有効活用が空き家対策のような、「既存市街地の空き住宅地を活用する」など、そのあたりを連動させないといけないと思います。</p> <p>疑問があったのが、「一時的に多くの面積が増加する」というのが、平成37年を指して「一時的」というのは、表現がよくわかりません。</p>
部会長	前半のご指摘は、利用方向の「空き地や空き家の利用を進め、まちなかの居住や既存の住宅団地への定住を促進し」というのが、その意味を指すということを示しているように読めます。
部会員	そうすると既存の空き家を加味すると、目標値も、その中に入ってきます。空き住宅をどのくらい達成できたら、こうなるという、目標値があれば、すばらしいと思います。
部会長	たぶん、そうしてもらえますと思います。そうしないと、高齢者が亡くなった場合、空いた土地をどうするかとなったときに、不在地主化し、空いたままにならないようにしていかななくてはならないと、市も考えているし、そういうところを数字に入れていただければと思います。
部会員	「一時的」という表現が、少しぴんと来ないです。
部会長	それは事務局で工夫してください。区画整理で確定している住宅用地の増加分はしょうがないというようなことを、わかりやすい言葉で書けばいいのではないかと思います。
部会員	土地利用区分の利用方向はいいと思います。その下地の部分では、全体と

<p>部会長</p>	<p>してどこか落として、どういう部分の利用をやっていくかでいうと、災害の危険性はあるけれど、農地なのか住宅地なのかで、少し違うので、もう1個下のレイヤーで気になることはあります。</p> <p>あと、14ページの「(9) その他」とひとくくりにしてありますが、丁寧に見ていくことが必要だと思います。人口が減ったり、いろいろな活動をしていくときに、「その他」部分に入る土地がこれから増えてくるのではないかと思います。また、人口減少やコンパクトシティ化によって使わなくなり後始末をする部分も出てきて、大別されるような気がします。それをその他として、有効活用という形でひとくくりにしてしまっても、真反対の方向のものがここに書き込まれるので、土地利用計画上は、もう少し細かく見ていきながら、どうするかということは考える必要があるかと思います。ですから、目標値の考え方も、空き地が増えることはこれからの時代は悪くない可能性があるということです。ここの数字が増えた減ったということで一喜一憂とは、ここに関してはニュアンスが変わってくるというイメージです。</p> <p>「(9) その他」は、(1) から (8) を全体の面積から引いているため、その他に含まれる例を、駐車場、公園、墓地、ゴルフ場、スポーツ広場と、順番に拾っていくことはできるかもしれないけれど、それをどんなに拾おうが、その他のサムアップしたものになりません。部会員が言われたように、どちらかという、今後もきちんと維持管理し、ポジティブな利用をしていくべき公園、墓地等と、どちらかという利用をやめても構わない、あるいはやめた上で自然に戻したほうが良い所も含めて、どのようにしているかを、利用方法等のところでもう少し丁寧に書けるのなら書きたいですね。</p> <p>取りあえず、(1) から (8) まで、多くの委員の方が言われているように、利用方向は良いとすると、目標値の考え方は少なくとももう少し定量的に出せるような、論理がわかるような書き方をしてほしいということ、それを反映した形で、次回、目標値は設定してほしいということ、その目標値はここ10年くらいのトレンドでの変化と、目標値との現状の差分を見たときに、それが目標値の考え方である利用方法の施策の方向性を、均衡、配分をきちんと反映した方向になっているかというのを、しっかり確認をしてもらえればいいと思います。</p> <p>数字がもっと多くてもいいのではないかと、少なくともいいのではというのは、あまり議論してもしょうがないと思います。例えば、2を1にするのは問題があるかもしれませんが、0.15を0.14にすべきだとかはあまり言ってもしょうがないと思うので、そのあたりは、利用の方向と目標値の考え方が正しくできていて、それに基づいて目標値を設定し、それが少なくとも(1)</p>
------------	---

	<p>から（８）まで整合が取れていればいいです。（９）はしようがないということで、それぞれの数字は、各担当課と協議の上でしようが、それを縦割りではない形でまとめるのが、事務局の仕事になるので、お願いします。</p>
副部会長	<p>質問ですが、住宅のところ「市街化調整区域内の農村集落」と言ったときに、集落活力などがありますが、都市計画区域外の農村集落は、どういう扱いでしょうか。</p>
都市計画課	<p>この地区計画制度は、県でも長岡市でも使っていますが、市街化調整域内の地区計画制度と言っており、あえてこう表現しました。</p>
部会長	<p>３番目の文章が市街化調整区域内の農村集落で、地域づくりの実現に向けた土地利用というのが、わかる人には市街化調整区域の地区計画で、少しは宅地を増やすのだとわかります。ですが、一般の人からすると、中山間地も平場もとにかく都市計画区域以外の所でも集落があって、その集落の維持・活力をどうするのかといったときに、土地利用的にはどうするということころはあると思います。たぶん、他の土地利用の区分を食うことなく、今の集落部分の住宅用地で運用は足りませんが、小さな拠点の制度、地域再生計画を使うのだったら、住宅地以外の部分の計画も入ってくるので、その記述を１行加えるなど、そのあたりを少し考えてもらえますか。</p>
副部会長	<p>土地利用計画に全部引き込むかどうかの話だと思うので、お願いします。</p>
都市計画課長	<p>わかりました。改めて検討します。</p>
部会長	<p>目標値の数字がないところもあり、なかなか意見を言いにくいところもあると思いますが、次回、数字が出たときに、数字の多寡を言うのではなく、目標値の設定や、利用の方向、目標値の実際の数字が、ほぼ理屈として合っているかどうか、次回、再度検討するということがいいでしょうか。</p> <p>それでは、続いて、議事（３）「次期総合計画における土地利用構想（案）について」、事務局から説明をお願いします。</p>
政策企画課長	<p>（資料１ ３に基づき説明）</p>
部会長	<p>ありがとうございました。それでは、15ページの「基本方針（案）」、それ</p>

部会員	<p>から16ページの「利用形態から見た土地利用（案）」、17ページ目の「地勢上の特徴から見た土地利用（案）」について、意見をいただきたいと思います。16ページは、議事（2）で議論したものとほぼ重複しているので、「基本方針（案）」と、「地勢上の特徴から見た土地利用（案）」を中心にご意見を伺いたいと思います。</p> <p>15ページの「エ 豊かさや安心を支える土地利用」の下から3行目、「浸水や土砂災害による被害を受けるおそれのある土地については、都市的な土地利用を抑制し」と書かれていますが、これを書くと、基本的に平野部は浸水する可能性があるのも、全くできないことを言っているのと同様です。やはりこの前段で、ハード対策を進めるとともに、そういった地域はソフト対策を使いながら、抑制するのではなくて、うまく活用するというような表現にしないと、日本一災害に強い都市というのであればよくないかなと思いました。従いまして、この地勢上の平野地域は、そういった浸水の可能性の表現が必要かですが、この15ページに書いてあるような表現は、相反するのではないかと捉えられますので、再考したほうがいいと思います。</p>
部会長	<p>この部分は、前回、防災と減災について意見があり、それを加味したのだとは思いますが、委員がおっしゃるように、浸水の想定区域は全域になってしまうので、今ある市街地についてではなく、新しい開発は抑制するという意図で書いているつもりではないかと思えます。</p>
部会員	<p>確かに全域浸水するというと、身もふたもないですが、その身もふたもなさをここに書くのではなく、やはりいろいろな土地利用をする中で、いくつかのハザードと、その被害の評価をきちんと定めながら、相対的に地盤条件が悪いところや、明らかに浸水が大きく、災害が起きたときの被害が大きい部分に、わざわざ土地利用を進めていく必要はないだろうという意味で、そういったことを検討してもいい時代がきたのではないかという発言をしているつもりです。今のような意見もありますので、書きぶりは今すぐ思い浮かばないですが、うまく捉えていただければと思います。</p>
部会長	<p>少なくとも、明らかに危ない所に目をつぶり、新規開発したり再開発したりするのは理屈に合わないのも、事前防災的なことを含めて、減災だと思えます。そういうことが読み取れるような、わかりやすい文章にさせていただければと思います。土砂災害は、わかりやすく、何とかかなると思いますが、浸水は、委員が言われるようにどうにもならないと思うので、上手に書いてい</p>

部会員	<p>ただければと思います。</p> <p>前回は申し上げましたが、農業振興や、農地の重要性を訴えたいという立場で言わせてもらいます。浸水が多いという話を聞いたので、田んぼをダムとして活用しながら一時貯留するというものが、新潟県内でもいくつかあるのですが、そういうものを訴えるような記述はできないでしょうか。それとも、そういう意味が、この中に込められているのでしょうか。</p>
政策企画課長	<p>今のご意見のレベルの記述は、総合計画の基本構想の編集になりますので、少なくとも土地利用基本構想の中では記述しません。ただし、委員が言われるところは、災害面からは、承知していますから、この記述は具体的な施策の中ではありえるところです。</p>
部会長	<p>基本構想のあとに書く総合計画の基本計画の部分では、個別の施策で出てくる可能性はあるけれども、構想の部分では、特に土地利用の構想としては難しいというところだと思います。</p>
部会員	<p>言葉として気になるのは、15ページの「エ 豊かさや安心を支える土地利用」の冒頭です。「人口減少を克服」だと、人口減少社会で、いわゆる克服すれば何とかなるという記載ではなく、人口を増やせとなってしまいます。人口減少社会のもたらす社会の状況を、あまり悪いスパイラルにいかないように、みんなで元気よくするためには、言葉が足りないという感じがします。</p> <p>あともう1つ、「オ みんなで考え、実践する土地利用」は、なかなかみんなで実践しにくいという感じがします。実践は、例えば、空き家は、土地利用と少しスケールが違う感じがします。何となく込められた思いがあれば、もう少し教えてください。</p>
市長政策室長	<p>最初の「人口減少を克服し」は、確かにおっしゃるとおりだと思うので、もう少し検討すべきかと思います。</p> <p>「みんなで考え、実践する土地利用」は、総合計画、その前の総合戦略で、若者が主役のまちづくりを長岡市が打ち出してきたというのもあり、最後のくぐり、「若者をはじめとする市民自身が参加、企画、実現」とあります。総合戦略などの考えをくんでいるのは良いですが、これはこのタイトルでいいか、もう少し考えなくてはいけないと思います。</p>
部会長	<p>現実に、農地などは法人化して個人ではなくて集団で、それを市がサポー</p>

	<p>トするような形になっているし、森林もそういう形でやっていかないと無理だということからすると、細かい1個1個の空き地、空き家をどうするのかは別としても、それぞれの人がいろいろなことを自分の問題として考え、それぞれステークホルダーがみんな関わっていかねばいけないものだと思います。言ってみれば、行政だけが責務を負うのではなく、事業者や市民も責任もあるし、それから義務だけではなくて権利があるけれども、権利だけを主張するのではなくというようなところが、「みんなで考え、実践する」ということだとすると、事例をうまく含めて、イメージできるようにしてもらったほうがいいと思います。</p> <p>人口減少社会になると、1人でやれることが一定量だとすると、一人ひとりが一定量をやると人口が減ると少なくなってしまう。ところが、1人でやれる量を1.2倍にしろと言われてたら、1.2倍にできる人とできない人がいて、号令を出すことができません。組織になると、組織の中で役割分担して、弱点を補填しあえたり、あるいはある人の長所を活かしていくことができ、協働というようにことがいわれています。「みんなで」というところが、「連携、協働」の意図だと思うので、そのあたりはそうのように書いてもらえればと思います。なおかつ、「地域に応じて」というところを、例えば農村集落にしろ、郊外団地にしろ、中心部にしろ、コミュニティーベースで、公と個の間の協働の部分を上手に書いてもらえればと思います。</p> <p>部会長が今おっしゃったような概念で、ここが組み立てられているとよくわかりますが、最初に空き家の問題みたいな小さな空間利用の話や、若者など土地も持っていないで、なかなかそういうステークホルダーになりにくい人たちのことが入っているので、何となくスケール感が少しだけ合っていないと思います。部会長のおっしゃる例えば集落で使うところ、使わないところというメリハリをつけていこうというのを、みんなで合意をしながらやっていくのは、すばらしいことだし、そこを入れたいのであれば、少し下の説明を、若者を入れたいのはよくわかりますが、これは10年使いますので、検討いただければと思います。</p>
部会員	
部会長	<p>「オ」は新しく入ったところだから大変だとは思いますが、お願いします。</p>
部会員	<p>「オ」はすばらしい部分だと思っていました。今までのこの会議の中で、市街地とともに農地や森林を保全していくためには、当然、人が必要で、担い手をどうするのかという問題は、土地利用構想からは切っても切れない問題だという指摘は、かなりあったと思います。私は、この考えて実践をして</p>

<p>部会長</p>	<p>いくというのは、そういう担い手をどうするのだという問題に対する回答として、書きたかったのではないかと思っていましたが、そういう趣旨ではなかったということですか。</p> <p>担い手も絶対量は減るので、責任はいろいろな人がとらなくてはならないのに、一部の人に責任がかかるような社会は無理だ、というようなことを、きちんと書いてほしいと思います。1割のよく働く人が、9割の仕事をしているというのではまずいです。</p> <p>今、委員が言われたように、大事な部分だと思うので、そういうところをうまく伝わるように書いてください。それと、土地は個人の財産だから、個人が自由に使っているのではないかと思う人がたくさんいますが、そんなことはないということも含めて、みんなで考えて、実践するということだと思います。</p>
<p>市長政策室長</p>	<p>タイトルはこのままだとしても、その下の書き方を再考します。</p>
<p>部会員</p>	<p>16ページの住宅地ですが、最後の「市内の各地域等において買い物や医療・福祉など複数の生活サービスの配置を目指す拠点では、その周辺に居住を誘導し」は、非常に納得いく内容ですが、そのあとの「歩いて暮らしやすい」というところで引っかかります。本当に歩いて行けるのは、長岡市内だと、長岡周辺などの市街地くらいで、それ以外では距離があり、車で5分といったケースが多いので、「歩いて行く」ところを、わざわざここに入れないで、「身近な」等、何か違う表現に置き換えたほうがいいのかと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>この意図は、市内の各地域の生活サービスの拠点ということで、郵便局、幼稚園、学校等があるところになるべく人が住んでもらうようにしようという、今の国の方向でもあります。他に住んではいけないとは言わないけれども、その周辺に住んだ人たちは歩いて暮らしやすいまちづくりができるということだと思うので、別に車を使うなどは書いていません。逆に、「身近な」と書いてしまうと、歩いて暮らしやすいまちづくりという明確な目標がなくなってしまう。要するに後期高齢者に無理やり車を使わせるような、そういう社会ではなくしたいということが意図されています。</p>
<p>部会員</p>	<p>夏場だったら歩いてでいいかもしれませんが、冬場は、雪が降ると無理で、山古志に行った際には怖い思いもしたので、気になりました。</p>

<p>部会長</p>	<p>山古志の全域で歩けといっているわけではないです。例えば、与板、来迎寺あたりで、外側に広がるくらいならば、与板や来迎寺の中心部に近い所に、なるべくいろいろな機能が集まり、その周辺の住宅地からなら通いやすいから、なるべくその周辺に住んでくださいというのが、今のトレンドです。薄く広がった郊外住宅地はやめようと言っているだけです。</p> <p>私から一つ。16と17ページ目を編集するとき、最後の寺泊の白地のところを上手にしてほしいです。16ページ目の「利用形態から見た土地利用」はエアポケットになる可能性もあり、土地利用政策上でいうと一番問題なのは寺泊の白地だったりするので、そういうところも踏まえて書いていただければというのと、それから当然、信濃川平野地域、山間丘陵地域、海岸丘陵地域の自然地、農地、住宅地がそれぞれ、性質が違うと思うので、それをうまく、それぞれの考え方でいく発想が必要だと思います。</p> <p>特に、信濃川沿いの平野地域は多くの方が住んでいて、ほぼ均一な空間が広がっているからいいとして、例えば海岸丘陵地域が寺泊と和島で、特に116号沿いの農地や平山の自然地と、山間丘陵地域と言っているところの自然地では、だいぶ違ったりするので、そういうところを書き分けてもらうと思います。住宅も、もしかしたらそういうことがあるかもしれないので、もしも編集するなら、そのあたりに気をつけていただければと思います。</p> <p>基本方針は、私も、ア・イ・ウ・エ・オと5つ出していただいたのはありがたいと思っています。ただ、この5つの方針は、今、順番としてはこういう順番が同質だという思いで書いていても、どうしても読む人は1・2・3・4・5として読むので、例えば今回でいうと、「コンパクトで、広域的な拠点性を高める土地利用」を2番目に挙げたのは、今の社会経済情勢だと大体後ろで挙げているということがあると思います。そのあたりのところも、イ・ウ・エの関係等を、あとで誰にでも説明できるように用意していたほうがいいです。この順番を変えろという意味ではなく、私はこれはこれでいいと思いますが、人によっては「長岡は、やはり安心・安全が前だから、もう少し上に上げろ」と言う人もいるかもしれません。こういう意図で書いたと説明できるようにしておいてください</p>
<p>部会員</p>	<p>17ページのそれぞれの地勢上の特徴からみた3地域区分で、2つ目の農地の部分で、前は「農地や食糧生産基盤として」と同じトーンでしたが、今回、中山間丘陵地域には、「治水・土砂災害などの視点も踏まえつつ」と入り、いいと思います。これは他の部会員にお伺いしたのですが、中山間の農地は、いわゆる生産性自体はそんなに高くないけれど、すごく付加価値が高</p>

<p>部会員</p>	<p>い農作物を作る場所として、最近、脚光を浴びている気がします。中山間の農地が持っているポテンシャルをもう少し的確に表す言葉があるのではないかと思います。やはり「食料生産基盤」になるのでしょうか。そうすると、気になるのは、生産効率を言われ始めると、中山間は立ち止まる感じで、違う物差しで言及しておくほうが、そういったところを見越して切り替えるとか活用できるような施策につながっていくのかと思います。</p> <p>言われるとおり、そういう部分が、食料の問題と地域の環境をどう守るかという話との接点の部分の話であり、一番難しいところだと思っています。</p> <p>ベースとして、地域の自然環境をどう守るというのを、まず先にあっているのではないかと考えています。自然環境をきちんと管理することが防災へも繋がります。ここの記述の中に含まれていますが、そういう視点で考えると、その中でこれを効率的に維持管理するための方法の1つに農地あるいは牧場としての管理がある。そういうことで、経済的な効果をその中で発揮すればいいのだと考えます。</p> <p>農業の視点だけで経済効果だけ追い詰めていくと、管理というところにはとても及ばない。棚田が良い例だと思います。あのきれいな環境を維持するために、どれほどの手間暇がかかっているか、なかなか皆さんには理解できないと思います。これを経済での範ちゅうだけで考えるのは、やはり無理があります。特定の所は可能であっても、長岡市全体の土地の活用の方法としては、とても無理があると考えていまして、あくまでも農業という観点が、差し当たり一番有効な手だてと認識しています。</p> <p>例えば、栃尾地域で、農業で食べている人はそんなに多くありません。しかし、兼業農業の人たちが、そこで農業をやって生活をしている中で、農地の管理とともに、道路、水路、林地等々についても管理しているのが、今の実態と考えていただければいいと思います。これを、農業だけの視点で全部やるのは、やはり無理があります。</p> <p>この面については、今、TPPという話がありますが、この中で1つ議論があるのが、農業については所得政策でいくのか、価格政策でいくのかという観点があります。農業のビジネスの観点でものを考えるのは、どちらかというと所得政策。所得政策に加えて、自然の管理をする人を確保するということに視点を置いたのが価格政策です。こちらがヨーロッパの農業の形態です。自然管理をするとともに農業を営む、むしろ農業を営みながら自然を管理する。あるいは、国境管理というのも含んでいるようですけれども、そんなことがあります。</p> <p>そういう意味で、やはり、このあたりについては冷静に広く、いろいろな</p>
------------	---

<p>部会長</p>	<p>視点から考えていただく必要があると思います。ただ、この記述の中では、そうしたことをどういうふうに書き込めばいいかと言われると、わかりませんが、一応そういう観点を持って事をやろうとすれば、大体、内包されているかなとは思っています。</p> <p>たぶん、部会員が言われているのは、どの地域区分の農業でも「食糧生産基盤として活用を図ります」と書いているけれど、平野と中山間地では少し違うのではないかとということで、そのまま書いていると同じことをやらざるを得ないのではないかとということでしょうか。</p>
<p>部会員</p>	<p>同じことにいかないほうがいいのかということですか。農地の優良性が場所によって違うのではないかといったときに、その農家が食糧生産基盤という土俵と一緒に乗ってしまうと、生産量が高いとかいう物差しで測られてしまうように、食糧生産基盤という言葉を使わないほうが、ここは説明できるのではないかとという意味です。同じ言葉で書いてしまうと、1反当たり、1アール当たりの生産量が悪いと、順番でいったら中山間がどんどんなくなってしまうのではないかとということで、ここを書き換えたほうがいいのかと思います。9ページは、全体として、いろいろな言葉が含まれているのはしょうがないにしても、こちらで分けたときに同じような書き方でいいのか、気になります。</p>
<p>部会員</p>	<p>非常にありがたい意見を頂いたと思いますが、優良地の保全のほかに「治水・土砂災害などの視点」というのがあったので、違いがわかると思いましたが、でも、おっしゃるとおり、中山間地の農地は、基本は食糧生産です。そこに現在ですと、やはり防災機能も当然含まれていると思います。そこが崩れれば、農地がだめになり、川がだめになり、それでまた海が壊れると連動しますので、食糧と同時に防災機能も持っています。ただ、コストからいうと、平場と比べて膨大なコストがかかります。それを維持しようとする、非常に大変だというのが、別の中山間地のモチーフだと思います。それを解決する対策としては、その地域独自の付加価値をどうやって作物に付けていくかということと、併せて、それだけでは、やはり少し足りない、やはり所得政策です。直接支払いというのを合わせないと、なかなか中山間地の維持はできないのではないかと気がします。</p> <p>そのため、産業施策と地域施策、両方を中山間地には入れていかないと、なかなか保てないので、具体的な施策を楽しみにしています。</p>

部会長	<p>17ページで書いてあることが、その後うまく施策として反映できるような書き方にしてもらえば問題ないと思います。</p>
副部会長	<p>今までの話は、非常に今、我々の業界のほうでも話題になっているところです。しかし、この記述は、もうこれでいいと思います。その理由は、農業の政策とその他の機能というロジックにかかるわけです。今現在の考え方はそうではなく、全部ひっくるめて、生態系サービスという表現をしています。そのときには、農業政策も観光機能の部分も防災も同じ同列で考えるというようにやって、それぞれの経済価値で比較していると思います。そうすると、当然、平場の農地と中山間地の農地の経済価値のバランスが変わってくる。それを比較して、これは、だから重要になるよという考え方があるのですが、残念ながら、防災や観光、自然の保護などの経済的価値を測る物差しは、まだそれぞれあいまいです。そのため、10年後はこの書き方が変わるかと思っています。ただ、今現在はまだそのあたりが明快に書けないので、この時点では農業生産と、その他の価値、今、これが一番言われているので、そういう表現で書かざるを得ないかと思っています。</p> <p>このあたりの施策の展開という中で、いろいろな個々の施策をどうサポートをするかで、いかに農地を保全していくかを、この構想にも書いていただいて非常にありがたいと思っていますが、これは、実際にやろうとすると非常にさまざまな問題があります。全国でいろいろな事例がありますから、今後の施策の展開のときに、全国の事例を集めて、中山間地の農地の保護のためには、どういう手法があるかが出てくれば、これで有効な施策になるかと思っています。</p>
部会員	<p>私が言いたいのは、「優良」の物差しがどうも地域によって違うので、優良農地を先に言葉として出してしまったり、同じ文言で全部同じ土俵でやってしまったときに、中山間の農地が優良性において、ヒエラルキーできちんと上のほうにいけるのかどうか心配だからというだけです。皆さん、大丈夫だとおっしゃるので、自分の取り越し苦労だったようです。失礼しました。</p>
部会長	<p>大事なところだと思います。ありがとうございます。</p> <p>それでは、15ページ目は少し気になる文言、言い回しの問題や、少し付加したほうがいいのかということで意見を頂いています。「オ」は、早めに書き換えるとして、16、17ページ目はおおむねご了承を得たと思いますので、これは、すぐに策定委員会の方にかけるということによろしいでしょうか。</p>

部会員一同	(異議なし)
部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、議事は(3)まで終わりました。議事の(1)、(2)、(3)のところで言い忘れたことがあったら、今、承っておきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>よろしければ、「4 その他」になりますので、事務局にお返ししたいと思います。</p>
政策企画課長補佐	<p>(第4回の開催日程について説明)</p> <p>本日は貴重なご意見、ありがとうございました。これをもちまして、第3回の長岡市総合計画策定委員会土地利用部会を閉会いたします。</p>